

やしろの森自然観察会（夜間採集など）報告

兵庫県生物学会東播磨支部

実施日時：令和3年7月22日（木）午後5:00～午後8:15
（受付 午後4:30～）

講師：小倉滋（NPO法人三木自然愛好研究会初代理事長）

参加者：会員（7）、生徒他（14）計21名（講師を含む）

（会員）小倉滋，工義尚，北村健，梶原洋一，
上根大輔，西口龍平，植田好人

（会員外）白陵中学高校生徒（6名），
加古川西高校生（2名），その他（6名）

内容：まず小倉先生による講義。先ほど公園内のリュウブの花で捕まえたというスネケブカヒロコバネカミキリという珍しい甲虫の紹介があり、続いて、北村が持参した甲虫（自宅前の神社の明かりに集まってきた）標本を題材に解説された。その立派な触覚から昔の医者を連想して、ヒゲコガネのことをお医者さんブイブイと呼んでいた。今は、これもコカブトムシもシマゲンゴロウも減少している、など。また、園内で採集したセミの抜け殻を示しながら、芭蕉の有名な俳句「静けさや岩にしみいる蟬の声」のセミは何ゼミでしょうか。それはニイニゼミです。なぜなら立石寺（山形県にある山寺）の位置と、この句が詠まれたであろう季節から特定される。また、ニイニゼミの幼虫はおしっこで穴を固めるとか、大雨の後は土を盛り上げて塚をつくってその上に乗っかるな

ど、興味深いお話が続いた。その後、夕飯のお弁当を食べて各自園内の観察。

暗くなってからは主に灯火採集を行った。

確認できた生物

夕方、園内で見た昆虫：シオカラトンボ、カトリヤンマ、ツマグロヒョウモン、ヒメウラナミジャノメ、サトキマダラヒカゲ、オオトモエ、カラスアゲハ、モンキアゲハ、ヒグラシ、ミンミンゼミ、ヤブキリ、ゴマダラカミキリ、スネケブカヒロコバネカミキリ、コメツキの仲間、キマワリ、コクワガタ（雌）

灯火採集以外の夜間採集（又は確認）した昆虫：ヘイケボタル、ミヤマクワガタ（雌）、コクワガタ（雄）、ヒラタクワガタ（雄）

灯火採集による昆虫：ホソヘリカメムシ、チャバネアオカメムシ、イネカメムシ、クサギカメムシ、オオホシカメムシ、マツモムシ、アメンボ、ヒグラシ、ニイニゼミ、アミガサハゴロモ、ヒメウラナミジャノメ、オオエグリバ、ヒラタクワガタ、コクワガタ、ノコギリクワガタ、アオドウガネ、コガネムシ、ヒメコガネ、クロコガネ、アカビロードコガネ、コガムシ、ヒラタドROMシ、ムナビロサビキコリ、ミズムシ、チビコガシラミズムシ、コシマゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、オオモモフトシデムシ、ヒラタシデムシ、マダラスズ、ブユ、ヒシバッタの仲間、トビケラの仲間、ガガンボ



